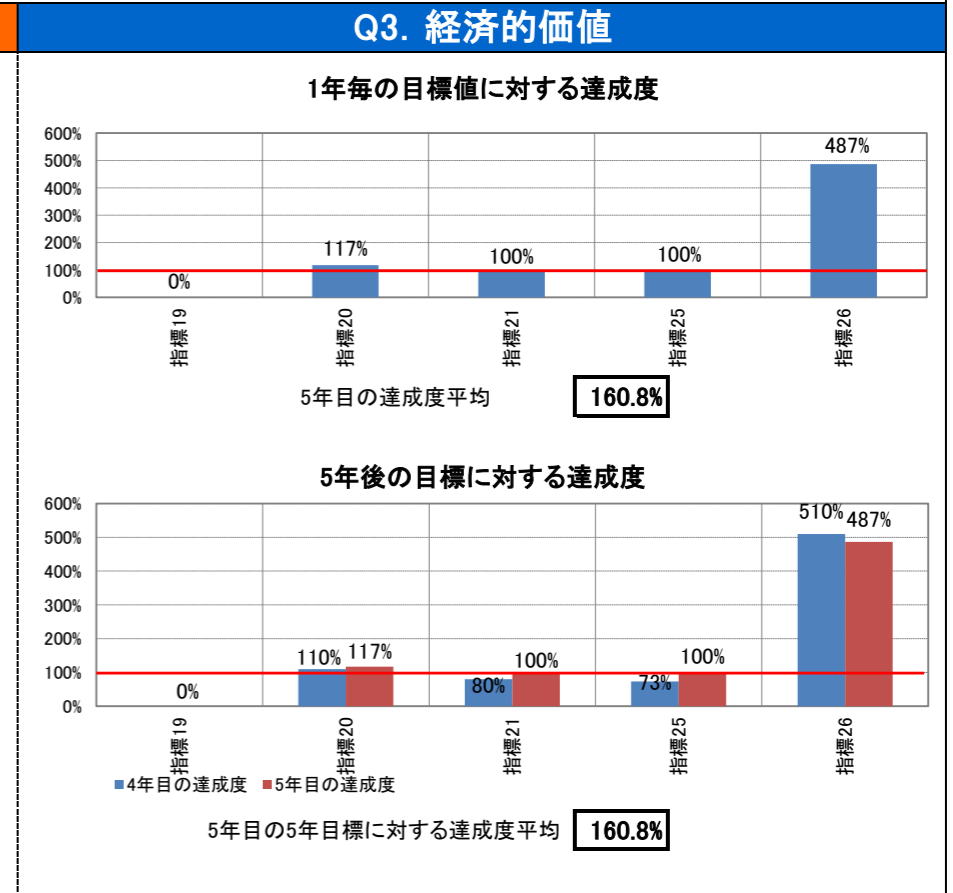
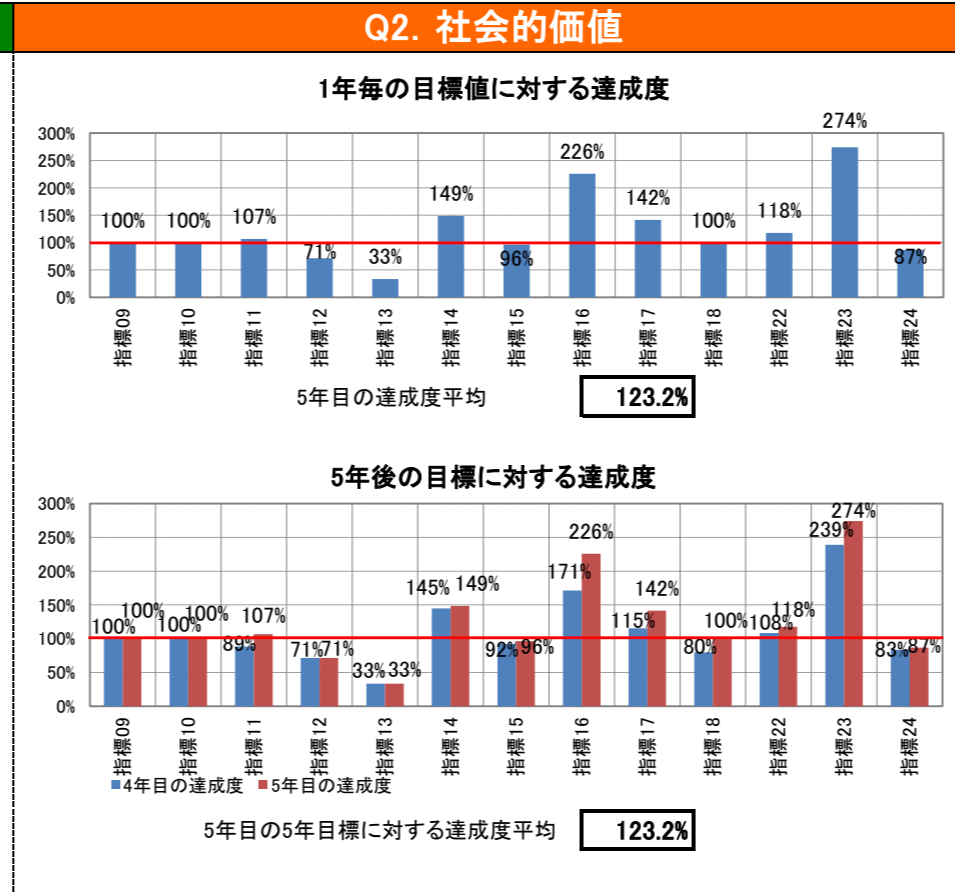
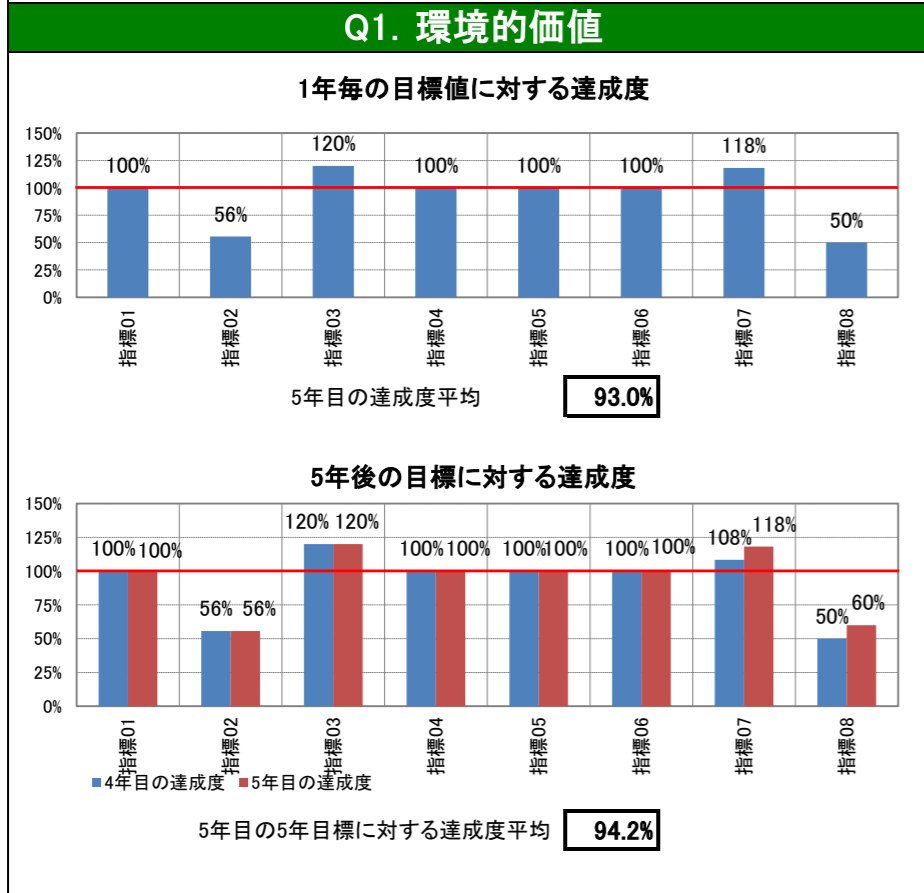


千葉県 柏市	人口: 413,657人(平成29年3月末現在)
	世帯数: 183,061世帯(平成29年3月末現在)
	就業人口: 189,003人(平成27年10月末現在)
	面積: 114.74km ² (うち森林面積1.12km ²)

取組進捗評価結果(都市による自主評価に基づく達成度)



指標番号	指標名	平成28年度の特記事項(国際展開・都市間連携等)	5年間の取組総括
指標01	駅周辺54街区のエネルギー管理・節電ナビゲーションを行う『柏の葉・AEMSセンター』のインターフェイスシステム整備	<p>平成28年11月22日に柏の葉において、UDCK設立10周年記念国際シンポジウムを開催。</p> <p>公・民・学連携による新たなまちづくりの枠組みの成功事例として、柏の葉での取組等について、世界へ柏の葉モデルを発信した。</p> <p>平成28年度の取組総括</p> <p>計画期間最終年度として、各取組のこれまでの課題等を踏まえ、事業推進を図ったものの、スマートメーター導入戸数(指標2)は、HEMS導入に対する補助制度を活用した新規設置が増えず、目標値を大幅に下回った。また、エンジェル税制活用件数(指標19)等については、関係省庁等との協議が整わず、結果的にエンジェル税制の活用はできず、目標値が未達成となった。</p> <p>一方、市民モニター数(指標23)は、まちづくりの進展とともに様々な実証実験が実施され、地域住民の主体的な参画が進んだことから当初計画の目標値を大幅に上回った。また、公・民・学連携によるまちづくりのモデル事例として、柏の葉エリアが認知されたため、海外視察団体数(指標26)は、当初計画の目標値を大きく上回り、国内外に環境未来都市構想の思想や成果のPRIにつながったと考える。</p>	<p>環境分野においては、スマートエネルギーシステムの完成・運用により、環境に配慮した安全安心なまちづくりの基礎ができ、全市展開に向けた都市への実装となるモデル事例となった。</p> <p>社会分野においては、将来の超高齢化社会に向けて、市民参加型の健康情報発信拠点『まちの健康研究所「あ・した」』を開設し、高齢者に健康価値の普及と生きがい社会参画の場を提供した。また、総合特区制度の活用による規制緩和により、地域医療の充実を図るとともに、「健康未来都市宣言」の取組は、市の総合計画に位置付け、フレイル予防の取組の全市展開につながった。</p> <p>経済分野においては、当初計画していたエンジェル税制の規制緩和は実現できなかったものの、TEPによるアーリーステージにおけるベンチャー企業の創業支援等により、エンジェル税制の活用の前段階において、大部分の課題を解決することができた。</p> <p>公・民・学連携によるまちづくりの「組織」「拠点」となる「UDCK」の仕組みは、次世代のまちづくりのモデル事例として、全国に展開している。</p>
指標02	スマートメーター導入戸数		
指標03	カーボンオフセット協賛企業		
指標04	再生可能エネルギー地産地消システムの構築		
指標05	148街区における大規模ガス発電機の配備		
指標06	非常時における街区間電力融通		
指標07	次世代交通システム利用者		
指標08	柏ITS情報センターの設立		
指標09	健康未来都市かしわ宣言		
指標10	まちの健康研究所施設数		
指標11	まちの健康研究所		
指標12	特例措置による訪問リハビリステーション事業所数		
指標13	特例措置による歯科衛生士事務所数		
指標14	特例措置による訪問リハビリステーションの訪問リハビリ実施件数		
指標15	柏市内の訪問リハビリ実施件数		
指標16	特例措置による歯科衛生士事務所の口腔ケア実施件数		
指標17	柏市内の口腔ケア実施件数		
指標18	元気高齢者が地域で活躍できるコミュニティ構築～東京大学高齢社会総合研究機構・監修～		
指標19	エンジェル税制活用件数(大学・研究機関発ベンチャー企業)		
指標20	TEPによる柏市内ベンチャー企業の支援者数		
指標21	アワード開催回数		
指標22	地域カホイントプログラム加入者数		
指標23	実証実験の市民モニター数(人)		
指標24	フィールド型研究・実証実験数(件)		
指標25	ネットワーク参画機関数		
指標26	海外視察団体数		
		委員からの5年間の取組全体に関する評価	
		<p>〇立地特性を活かしながら、公・民・学連携によって、環境・社会・経済のそれぞれの面で成果を上げており、環境未来都市のコンセプトを体現している事例として評価される。</p> <p>〇柏の葉キャンパスエリアのまちづくりはユニークな試みであり、1つの成功モデルを構築できたことは、大きな成果といえる。また、その成功モデルを全国展開している点も評価される。</p> <p>〇取組のレベルは高いので、よりアウトカムを意識したKPIの設定が望まれる。</p> <p>〇この実績をどのように市内全体に広めていくかが課題である。特に、公・民・学連携のまちづくりにおける行政の担う役割を明確に整理できると、今後の発展に期待できる。</p>	

柏の葉キャンパス 「公民学連携による自律した都市経営」

柏市、東京大学
千葉大学、三井不動産（株）
柏の葉アーバンデザインセンター
（一社）TXアクトプラザパートナーズ

取組の背景・地域特性

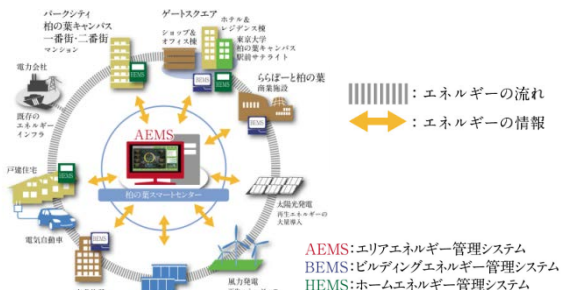
- つくばエクスプレスの開通に伴い「ゼロ」からのまちづくりが進められた。
- 社会の課題（低炭素化・超高齢化・経済活性）解決モデルとなるまちづくりが求められる。
- 東京大学や千葉大学等の研究機関や企業が集積する特性を活かした新たなまちづくりの仕組みをつくる。

主な取組内容

環境

○環境共生都市

- ・ 地域単位でエネルギー管理するAEMS（エリアエネルギー管理システム）を構築し、電力の効率利用と低炭素化を実現。
- ・ 災害時におけるライフラインへのエネルギー供給（街区間電力融通）を可能にし、安心・安全のまちづくりを実現。



社会

○健康長寿都市

- ・ 健康な毎日をつくる推進拠点として、まちの健康研究所「あ・し・た」を整備し、健康寿命の延伸と介護予防を推進。
- ・ 市民主体での健康増進活動を普及するため、公民学連携による「柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会」を設立し、組織横断的な推進体制を構築。



経済

○新産業創造都市

- ・ 企業家や研究者などが交流し、新事業や製品・サービスを創造するための場として、大型コワーキングスペース「KOIL」を整備し、新たなイノベーションを誘発。
- ・ 大学・研究機関発ベンチャー企業の創業支援・育成を行い、柏の経済的成長と新産業創出を推進。



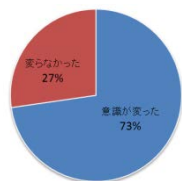
主な成果

環境分野の成果

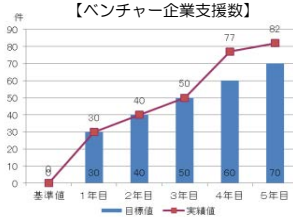
再生可能エネルギー等による
【CO2削減量】

7,900 t-CO2
(累計)

健康分野の成果 【フレイル予防の意識変容率】



経済分野の成果 【ベンチャー企業支援数】



ポイント

公・民・学の各主体がフラットな立場でまちづくりに参画するとともに、まちづくりを推進する「組織」・「拠点」となる「柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）」をプラットフォームに、各事業主体が連携する仕組みを構築し、全国に普及展開。